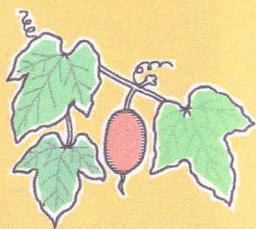


STOP! THE YANBA DAM



CONTENTS

- 解決できなかった「湯水」は無い!
～ハッ場ダムの水はいらない
……武笠紀子
- 多くの問題、矛盾を抱えながら進め
られているハッ場ダム建設工事
……嶋津暉之
- ウナギがすみやすい利根川を!
……中村春子
- お知らせ:
利根川中流部の調査見学会
- 編集後記
……入江晶子
編集:猪俣悦子

vol. 27



ハッ場ダムをストップさせる千葉の会

代表:武笠紀子・中村春子

住所:〒285-0825 千葉県佐倉市江原台2-5-29

TEL:043-486-1363

ウェブ:<http://yanbachiba.blog102.fc2.com/>

2017年9月1日発行

解決できなかった『湯水』は無い! ～ハッ場ダムの水はいらない

ハッ場ダムの建設が進んでいます。2・3ページの嶋津さんの現地ご報告を読んでいただくと良くわかりますが、一都五県の裁判で明らかにされた、多くの課題を残したままです。裁判では、自治体からのダムへの支出が違法ではないと判断されましたが、利水面で必要であるとか、洪水を防ぐ役に立つとか、周辺の自然や景観に悪い影響が出ないと立証することはできていません。

今年の梅雨には、関東地方にほとんど雨が降らず、例のごとく八木沢ダムの映像とともに取水制限をしたとの報道がありました。梅雨明け後の降雨や台風とともに消えました。さる天気予報士が言う通り、近年「解消されなかった水不足は無い」のです。計画から50年も経過したハッ場ダムの水を必要とする気配はありません。

今年の台風5号は日本列島に長く居座り、各地に観測史上最大の雨量を記録し、群馬県の吾妻地方にも大雨が降りましたが、ハッ場ダムは無いにも関わらず、利根川が増水したというニュースはどこにもありませんでした。また、鬼怒川上流には4つの大規模ダムがありながら、一昨年、下流部で堤防が決壊。常総市で大洪水が起きました。

NHKは、ハッ場ダムの工事現場を取り上げた番組で、日本のダム技術力をアピールしましたが、そのためにハッ場ダムを造られたのでは、各地で内水氾濫による被害が続く住民は堪りません。

今年度、河川整備計画改正から20周年を迎えます。ダム政策からの脱却を求めて活動を続けていきたいと思えます。(武笠紀子)



●会費納入のお願い (一口 1000円/年)
会費振込先: 00120-5-426489

多くの問題、矛盾を抱 ハッ場ダム

ハッ場ダム本体コンクリートの打設工事が昨年10月から始まりました。最近のダム建設工法の技術進歩があり、打設工事がスピードアップされています。今年5月初めには堤高116 ㍎のうち、底部から約2割までの打設が進んだと報じられています。現在の計画では2019年度前期までにダム本体と関係設備をつくり上げ、2019年度後半に試験湛水を行って、2019年度末(2020年3月)にダムを完成させることになっています。

しかし、私たちが指摘してきた問題は何ら解消されることなく、ハッ場ダム建設工事が進められており、これから多くの問題、矛盾が露呈してくると予想されます。

1 事業費の更なる増額

昨年12月の第5回基本計画変更で、ハッ場ダムの事業費が4,600億円から5,320億円へと、大幅に増額されましたが、重要な増額要因が落とされています。

<増額要因>

(1) 代替地整備費用の大半の負担

ハッ場ダム事業では谷の大規模な埋め立てや山の斜面への造成など、地形条件の悪い中で無理をして代替地をつくっていますので、整備費用がきわめて高額になっており、とても分譲収益だけで賄うことができません。私たちの試算では代替地整備の費用収益の収支は100億円程度の赤字になり、それを事業費に上乗せすることが予想されます。

(2) 東京電力・水力発電所への減電補償

吾妻川には上流から下流まで東京電力の水力発電所がいくつもあって、吾妻川に流れるべき水の大半が水力発電所への送水トンネルの中を流れています。



小蓬菜より 7月5日 (C)

ハッ場ダムに水を貯めるためには、この発電所への送水量を大幅に制限しなければなりません。しかし、水利権は先行のものが優先されますので、発電所への送水量を制限するためには、東京電力に対して発電量の減少分について補償金を支払わなければなりません。私たちの試算では、この減電補償額は130～200億円以上にもなります。

(3) 地すべり対策の追加

次に述べるように、第5回基本計画変更が示された地すべり対策はきわめて不十分であり、地すべり対策の追加が必至と考えられます。

見えながら進められている 建設工事



「ハッ場あしたの会」撮影



石積みに使われていた石臼
(群馬県埋蔵文化財団HPより)



東宮遺跡の発掘調査 (「ハッ場あしたの会」撮影)

2 地すべり対策は十分か

今回の基本計画変更では地すべり等の安全対策費用が 141 億円増額されました。その内訳は地すべり対策 96 億円、代替地安全対策 44 億円です。変更前の計画では地すべり対策はわずか 6 億円、代替地安全対策はゼロでしたから、当然の増額です。

ハッ場ダム予定地は地質の脆弱なところが多いので、貯水して水位を上下すれば、地すべりが発生する可能性が高く、また、30 ㍍以上にもなる超高盛土の代替地も湛水後の安全性について大きな不安が持たれています。

(嶋津暉之)

ウナギがすみやすい利根川を！

私たちは必然性がなく次の世代に負の遺産となるであろうハッ場ダム建設に対して、裁判をはじめ多くの活動を通して、ずっと異を唱えきました。その活動の中、ハッ場ダムと海を結ぶ利根川水系が、ウナギが生きるためには最適の環境であったことを知りました。

現在、日本はもとより、ニホンウナギの分布する中国でも、シラスウナギの漁獲量が年々減少し、ピーク時の10分の1に減少。国は「近い将来、野生での絶滅の危険性が高い」と、絶滅危惧種に指定しました。

日本でも、有数のウナギの生息地であった利根川霞ヶ浦水系での漁獲量の経年推移をみると、1960年代3000トンあったものが、2000年代ではわずか610トンまで低下しています。

この天然ウナギの減少は、決して乱獲ではなく、1971年以降、30年間で大小30ものダムが建設された利根川とダム竣工が全くなかった四万十川のウナギ漁獲量を比較すると、利根川での減少の要因は、ダム建設に伴う河川環境の改変が影

響を及ぼしたと、専門家は推察しています。

また、シラスウナギの減少要因として、
①河川改修による物理的環境変化 ②下水や化学物質による汚染 ③シラスウナギの乱獲 ④地球温暖化などの海洋環境の変化があげられています。

利根川水系は1980年以前は常に全国の20%以上のウナギ漁獲量がありました。しかし、利根川・霞ヶ浦水系は、1960年代からの日本の高度経済政策の始まりの中で、治水・利水を目的にした河口堰工事、霞ヶ浦北浦での逆水門工事などにより、シラスウナギの遡上量が減少し、また4歳魚以上のオスの大半が川を下ったとも考えられる、とされています。

ウナギの生育場として、また、自然保護・資源保全を考える上でも、河川や湖沼に対する開発政策の見直しを求める必要があると思います。

(中村春子)

*ウナギパンフ発行及びアンケート集計結果が、利根川流域市民委員会ブログに掲載されています。

お知らせ

「利根川の未来を考えるカムバック・ウナギ・プロジェクト」 利根川中流部の調査見学会

このプロジェクトは、ウナギが生息できる環境を取り戻す視点から、利根川の河川としてのあり方を見直し、その改善策を考えるものです。ウナギをメルクマールにして、かつての利根川の豊かな自然をできるだけ取り戻せるよう、過去の河川事業を見直すうねりをつくり出していきたいと考えています。

今回は利根川中流部を対象にして、調査見学会を開きます。魚類の生息に大きな影響を与えていると考えられる坂東大堰、利根大堰などを見て回ります。このプロジェクトにご興味のある方は是非、ご参加ください。

11月9日(木) 10:00～16:00 (予定)

J R線高崎駅集合 マイクロバスで移動

- ① 利根川の坂東大堰 (渋川市)
- ② 利根川の八斗島流量観測所(烏川の合流点)
- ③ 利根大堰の施設見学 (行田市)
- ④ 利根大堰関係の用水路

J R線熊谷駅で解散

主催：利根川流域市民委員会

申込み先：深澤洋子 TEL 080-5372-4084 (先着順)

編集後記

空梅雨が明けたとたん、集中豪雨が頻発した今年の夏。水は恵みだけではなく、時として破壊的エネルギーをもたらす。

折しも、今年は1997年の河川法改正から20年目。当時盛り込まれた「環境保全」と「住民参加」という画期的視点は、その後のダム推進の流れの中で無視され、置き去りにされて

いる。

その結果、利根川水系でも大規模洪水被害から流域住民の安全を守ることができていない。今からでも遅くない。ウナギが棲む河川環境を取り戻し、真に有効な治水政策を求めて、声をあげ続けていこう！
(入江晶子)